

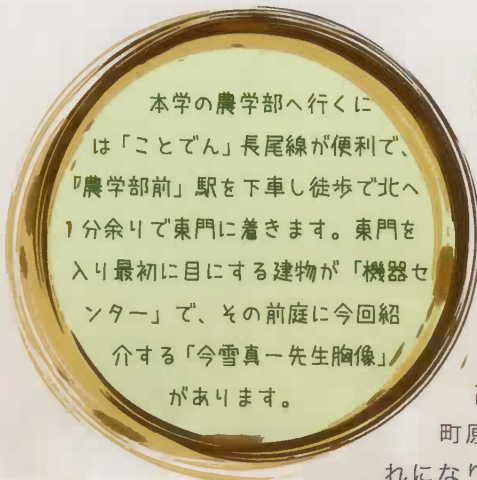
# ブランド資産紹介



## 今雪真一先生胸像



今雪真一先生



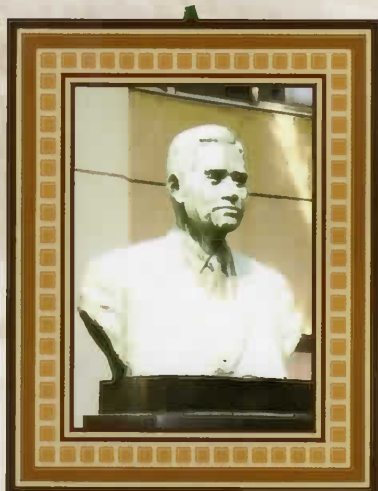
本学の農学部へ行くには「ことでん」長尾線が便利で、「農学部前」駅を下車し徒歩で北へ1分余りで東門に着きます。東門を入り最初に目にする建物が「機器センター」で、その前庭に今回紹介する「今雪真一先生胸像」があります。

**今** 雪真一先生は、明治25年8月17日に木田郡牟礼村大字原（現、高松市牟礼町原）にお生まれになりました。明治

43年3月に香川県立農林学校（現、本学農学部）をご卒業、後に鹿児島高等農林学校林学科に進まれ大正2年7月に卒業されました。その後、香川県さらに愛媛県林務課技手を経て、大正8年12月から母校の香川県立農林学校（後に香川県立木田農業学

校）の教諭を務められました。親身になってよく在学生や卒業生の指導に当たられ、学生から「蛇鳴」の愛称で親しまれ敬愛されました。とくに、海外発展を提唱し私費まで投じて植民地教育に日夜尽力され、「木田農植民部の育ての親」として、また「香川県南米移民の父」として県内はもとより広く全国にその名を知られました。

昭和13年3月に大川農業学校と大川高等女学校（現、石田高校）の校長に栄転され、退官後の昭和28年からは香川県移住協会副会長（会長は金子知事）として移住事業に専念されました。そして、先生のお子様方4人も率先して移住され、遂には先生ご自身も奥様と一緒に昭和36年4月22日に南米移住の途につかれました。現地で同胞の連絡や後進の指導に当たっておられましたが、昭和42年8月20日ブラジルにて永眠されました。「先生の輝かしいご功績を称える声が澎湃として起こり、偉業を永く後世に伝え限らない敬慕の誠を表すため（碑文）」昭和44年7月に胸像が建設されました。渡辺弘行氏制作、讃岐石材加工組合施工によるもので、正面の碑銘は前川忠夫氏（元学長、県知事）の、側面の碑文は安部一郎氏の書によるものです。なお、当初の建設場所は農学部の北庭でしたが、その後建設の池戸会館の影になっていましたので、平成5年11月に現在地に移され、その折にブラジル語の碑文が付されました。



今雪真一先生胸像

